

Combi

コンビ
ベビー
シート

Culetmieuller TS

Combi

キューレットミューラーTS ベビーシート

汎用型 質量グループ0
体重 ~10kg未満の乳幼児

取扱説明書

品質保証書付

- お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくご使用ください。
- P38の品質保証書の欄に必要な事項をご記入ください。
- **本書は、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。(6ページ参照)**

Web上にコンビの育児サイトを開設しています

コンビの製品&育児情報サイト・コンビタウン

<http://www.combibaby.com>

コンビ株式会社

商品に関するお問い合わせ、部品購入、修理などのご相談は、コンシューマープラザにて対応いたします。

コンシューマープラザ (Customer Service Center)

受付時間: 10時~17時 (日、祝祭日、年末年始を除く)

〒339-0025 埼玉県さいたま市岩槻区約上新田271

■総合受付 (各種ご相談) 窓口 商品に関するお問い合わせ/修理のご要望/各種ご相談/その他

TEL.(048)797-1000 FAX.(048)798-6109

■部品販売 (相談) 窓口 部品購入のお問い合わせとご注文

TEL.(048)797-1001 FAX.(048)798-6109

コンシューマープラザ (Customer Service Center) / 西日本担当

担当受付時間: 10時~17時 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江1-1-18

TEL.(06)6536-0456 FAX.(06)6536-4468

*ホームページのご案内 <http://www.combi.co.jp/cp/>



⚠危険

本製品は後向き専用です。
前向きでは絶対に使用しないでください。

お使いいただく前に





このたびは、コンビ ベビーシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。

お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解の上、正しくご使用ください。

ベビーシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。また、ベビーシートを使用するときは、必ず保護者の方が同乗してください。

●表示について

本書では安全に正しくご使用いただくため重要な事項を「危険」、「警告」、「注意」の表示で説明しています。重要事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性が想定される内容です。
 ワンポイント	ベビーシートをご使用いただく上で知っておいていただきたいこと、および知っておくと便利な内容です。

もくじ

■ お使いいただく前に	1
使いかた	3
各部のなまえ	5
使用条件	7
取り付け可能な車両シートベルトと 取付上の注意点	7
取り付けできない座席	9
安全にお使いいただくために	11
■ 車に取り付ける前に	16
インナークッションの使いかた	16
インナークッションのはずしかた	16
エッグショックパッドの取り付けかた ..	17
幌の使いかた	21
ハンドルの使いかた	21
肩ベルト穴位置の選びかた	22
お子さまの座らせかた	23
幼児ベルトの長さ調節のしかた	25
各部の調節の完了チェック	26
■ 車への取り付け	27
車への取り付け	27
取り付け準備	27
取り付けかた	28
取り付け時の完了チェック	29
■ その他の使いかた	31
ベビーキャリー	31
持ちかた	32
ロッキングチェア	33
ロッキングの使いかた	34
チェアの使いかた	34
■ お手入れのしかた	35
■ 製品仕様	37
製品を安全に、正しくお使いいただくために ..	34
■ 品質保証書	38

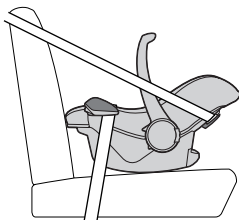
使いかた

本製品は3つの使いかたができます。

条件：身長76cm以下、頭頂部が本体から出ないこと。

お使いいただく前に

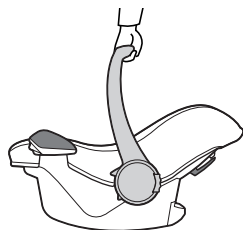
車の中では…
ベビーシート
として
P16～30



体重
参考年齢

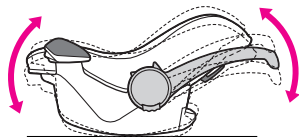
新生児 10kg未満
※体重2.5kg以上在胎週数37週以上 (12ヵ月ころ)

おでかけのときには…
ベビーキャリー
として
P31～32



新生児 10kg未満
(12ヵ月ころ)

お部屋の中では…
ロッキングチェア
として
P33～34



新生児 チェア 10kg
(12ヵ月ころ)

ロッキング
チェア 首すわり 9kg
(3～5ヵ月ころ) (10ヵ月ころ)

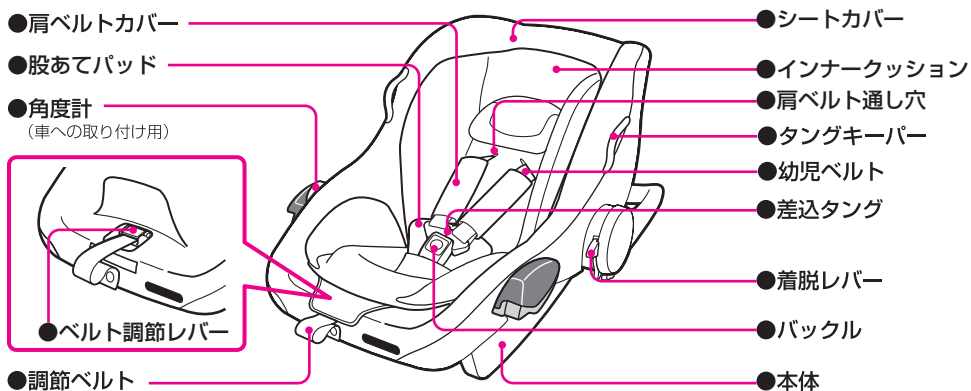
首がすわるまではロッキングさせず
チェアとしてお使いください。

お使いいただく前に

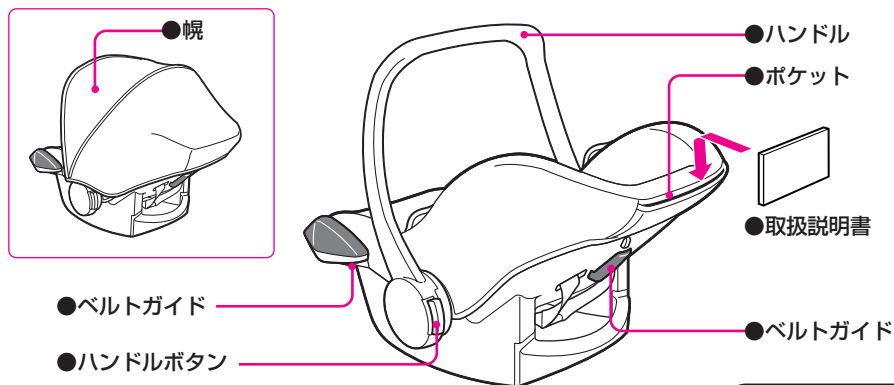
各部のなまえ

ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

正面



裏面・側面



●エッグショックパッド



着脱レバーは、ベビーカーへの着脱時に使用する部品で、ベビーカーに取り付けるとレバーが自動的に下がります。無理に押すと破損するおそれがあります。

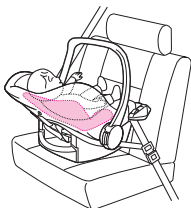
使用条件

ここでは、お子さまの体重によるインナークッションの使いかたを説明しています。お子さまの体重にあわせて正しくお使いください。

お子さまの体重にあわせて、2段階の使いかたをします。

1 体重6kg未満の場合

身長目安：～60cm程度
年齢目安：新生児～4ヶ月ころ
※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上。



その他の条件

使いかた

- 進行方向に対して後向き
- インナークッションを必ず使用する

2 体重6kg以上～10kg未満までの場合

身長目安：60cm～76cm程度
年齢目安：4ヶ月～12ヶ月ころ



その他の条件

使いかた

- 頭頂部がベビーシートの背もたれから出ないこと
- 進行方向に対して後向き
- インナークッションは使用禁止

注意 長時間連続してのご使用は、お子さまの負担となります。1時間程度を目安に休憩をとるなどしてください。

危険 ●本製品は後向き専用です。前向きでは絶対に使用しないでください。
●「身長目安」や「年齢目安」はあくまでも目安です。身長や年齢が上記条件を満たしていても、「体重条件」を満たしていないお子さまはお使いできません。

シートベルトの種類と取り付け上の注意点

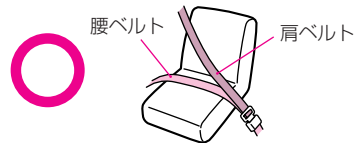
危険 必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

本装置はUN/ECE規則No.16または他の同等の基準に基づいて認可された3点式安全ベルトを装着した車種に限り使用することに適しています。
*日本国内で登録されている自動車はほぼ適合しております。車種適合につきましては下記アドレスにてご確認ください。
<http://www.combibaby.com>

シートベルトの種類	シートベルトの特徴 (見分けた)	取り付け上の注意点	取り付けの可否
ELR	ゆっくりと自由に入入りし、勢いよく引くとロックする。	ゆっくりとシートベルトを引きだして取り付けてください。	○
AELR	ベルトを全て引き出した後で巻き戻すとチャイルドシート固定機能がはたらきそれ以上伸びなくなる。(ベルトを全て巻き戻すと解除される)	シートベルトを全て引き出すと危険です。シートベルトを一度戻してチャイルドシート固定機能を解除してから取り付けてください。	○
NR	巻き取り装置の付いていないシートベルト。	ベビーシートに合わせてシートベルトの長さを調整し、固定してください。	○
NLR	ロック機能のない巻き取り装置付きシートベルト。		○
ALR	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。	使用できません。	×

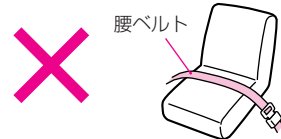
3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルトの左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



2点式シートベルトとは

図のように、肩ベルトがなく腰ベルトの左右2点で体を支えるシートベルトのこと。



(2点式シートベルトには取り付けられません)

取り付けできない座席

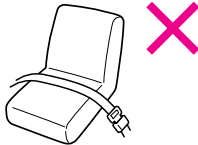
次の条件のいずれか1つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

下記以外の座席でも、ベビーシートをしっかりと取り付けできない場合には使用しないでください。

- シートベルトの付いていない座席。



- 2点式シートベルトの座席。



- シートベルトの長さが極端に短い座席。



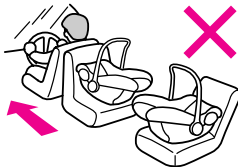
- エアバッグ装備の座席。
… サイドエアバッグのみの場合には使用できます。



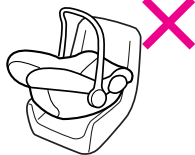
- ベビーシートのベルトガイドの位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。



- 進行方向に対して横向き、または後向きの座席。



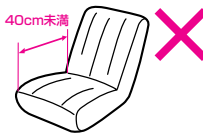
- 極端なバケットシート。
… 座面の中央が極端にへこんでいる座席。



- 座面の凸凹が極端で不安定になる座席。



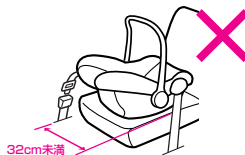
- 座面の奥行きが40cm未満の座席。



- パッシブシートベルトの付いた座席。

※ パッシブシートベルトとは
… 車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。
(オートマチックシートベルト)

- シートベルトの取り付け幅が32cm未満の場合。

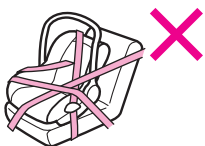
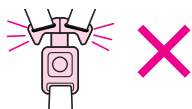


安全にお使いいただくために

⚠ 危険

次のような使いかたは、ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

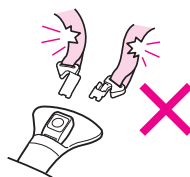
- 使用条件に**適合しない**お子さま・**座席**では、使用しないでください。
- 安全のため、必ず**後向き**に取り付けてください。前向きでは**絶対に使用しない**でください。
- 車に取り付けるときは、必ず**車のシートベルト**で固定してください。ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。
- **エアバッグ**が装着された座席では、ベビーシートを**使用しないでください**。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。
- **取扱説明書**どおりにしっかりと取り付けできないときは、他の座席に取り付けてください。
- **差込タンク**を重ね合わせてから『カチッ』と音がするまで、差込タンクをバックスルットに差し込んでください。
- 車に取り付けるときは、シートベルトを取扱説明書および本体表示に従って正しく取り付けてください。誤った部分を通して取り付けないでください。



⚠ 警告

次のような使いかたは、ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

- お子さまを車内に1人で**放置**しないでください。日ざしの強い日などには、車内の温度も高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。また予期せぬ事故の元となります。必ず保護者の方が同乗してください。
- **幼児ベルト**がたるんだ状態で**使用しない**でください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。
…正しい長さに調節してください。(25ページ参照)
- 衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも**強い衝撃**を受けた場合は、外見上の破損がなくても、**絶対に使用しない**でください。
- **幼児ベルト**に傷が付いたときは、ご使用をやめ、当社コンシューマープラザにお問い合わせください。

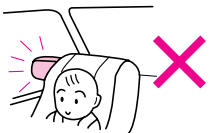
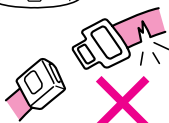
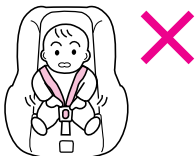


安全にお使いいただくために

警告

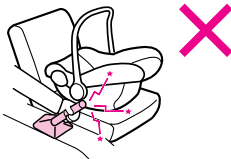
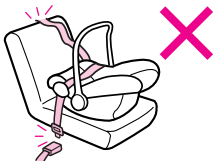
次のような使いかたは、ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

- お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。差込タンクがバックルからはずれていないことを確認してください。
- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。
- 車の前座席に、ベビーシートを取り付け、助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。



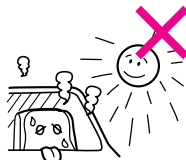
次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります。

- お子さまをベビーシートに乗せていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキや衝突時、運転者や同乗者にぶつかり、傷害を及ぼすおそれがあります。
- シフトレバーやパーキングブレーキなどの操作に支障をきたす場合は、後座席に取り付けてください。
- 2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、助手席に取り付けしないでください。緊急時の脱出の妨げになります。

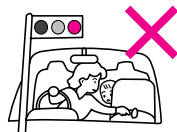


注意

- 直接日光が当たると、本体や差込タンクなどが熱くなり、お子さまがやけどをするおそれがあります。夏などの日差しが強い日は、日陰に駐車するかチャイルドシートにカバーをかけてください。また、お子さまを乗せる前に各部にさわって、やけどをしないことを確認してから使用してください。



- 走行中は、ベビーシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがベビーシートに触らないようにしてください。



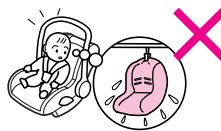
- 車の座席にクッションや座布団などを敷いたまま、ベビーシートを取り付けしないでください。しっかり固定されません。



- 固定されていない物を車内に置かないでください。急ブレーキや衝突時にお子さまなどに当たるおそれがあります。



- シートカバーなどの縫製品をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外の物と取り換えたりしないでください。(衝突時の安全性に影響を与えるおそれがあります)



- 本製品を車の座席可動部やドアなどに挟まないように十分注意してください。



- 車への乗せ降ろしの際には、ボンネットの上など、不安定で高い場所には置かないでください。

- ベビーシートを改造したり、他の部品などと交換しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。

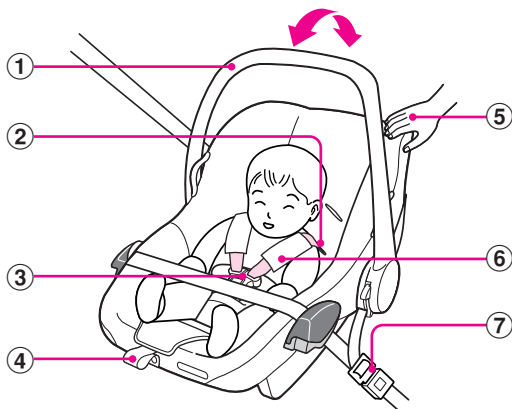
- ベビーシートを風雨にさらさないでください。

- 座席の表皮素材(革など)および形状によっては、取り付けた座席に傷や跡がつくおそれがあります。別売りの「コンビ スレ防止・保護シート」の使用をおすすめいたします。

安全にお使いいただくために

⚠ 日常の点検

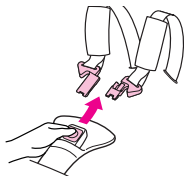
ベビーシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。



- ①ハンドルがたった状態であること
- ②幼児ベルトが正しい穴位置に通されていること
- ③差込タンクを重ね合わせてから『カチッ』と音がするまで、差込タンクがバックルに差し込まれていること
- ④幼児ベルトがお子さまの体にフィットしていること(ベルトをフィットさせてください)
- ⑤ベビーシートが座席にしっかりと取り付けられていること
- ⑥幼児ベルトにねじれやたるみがないこと
- ⑦車のシートベルトの差込金具がしっかりとバックルに差し込まれていること

⚠ 緊急時の脱出

事故など緊急時は、保護者の方がバックルボタン(赤色)を押し、幼児ベルトをはずして、お子さまを車外に脱出させてください。



インナークッションの使いかた(6kg未満のお子さまには)

インナークッションは、小さな赤ちゃんを保護するためのものです。お子さまの体重が6kg未満の場合には、インナークッションをお使いください。(工場出荷時、インナークッションは取り付けられています)また、6kg以上になりましたら必ず取りはずしてください。

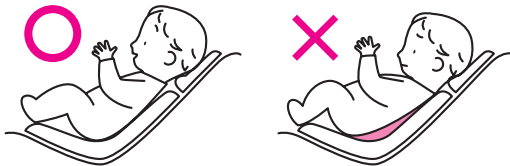
⚠ 警告

インナークッションが使用できるのはお子さまの体重が6kg未満までです。6kg以上で使用すると、本来の機能を果たさず危険です。

⚠ 注意

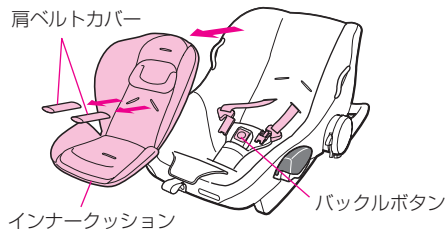
ベビーシートを持ち運ぶときには、インナークッションを持たないでください。

- インナークッションにあわせて、お子さまを深く座らせてください。



インナークッションのはずしかた

バックルボタンを押して差込タンクをはずし、幼児ベルトから肩ベルトカバーを引き抜き、バックルとベルトからインナークッションを引き抜きます。

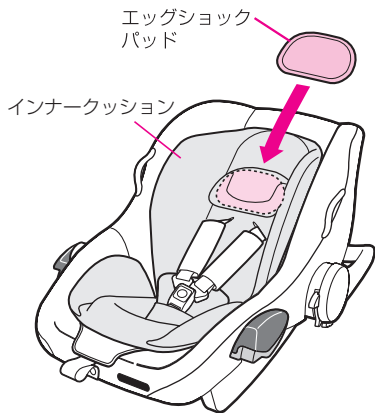


エッグショックパッドの取り付けかた

取り付ける場所は、お子さまの体重によって次のように変わります。

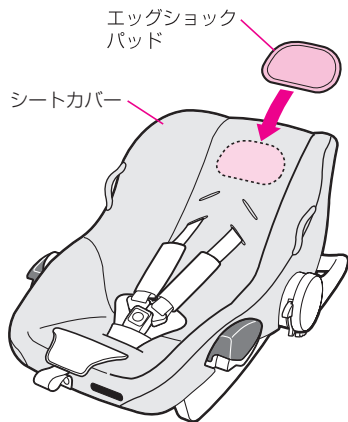
体重6kg未満の場合

- インナークッションに取り付けます。



体重6kg以上～10kg未満の場合

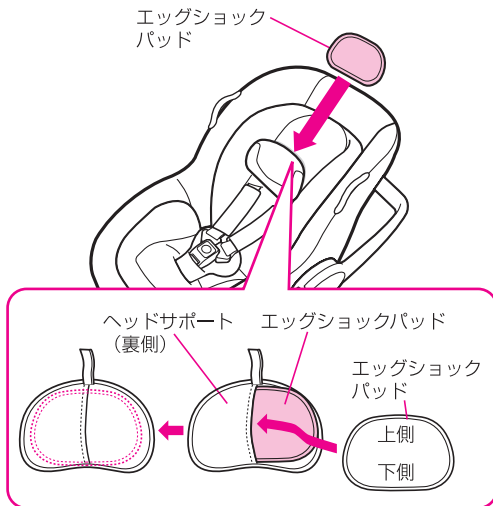
- シートカバーに取り付けます。



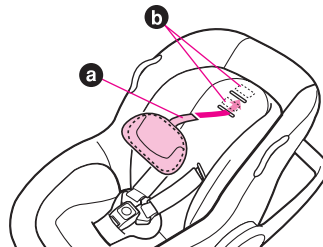
体重6kg未満のお子さまの場合

- インナークッションへの取り付けかた

- 1 インナークッションのヘッドサポートに、エッグショックパッドを取り付けます。



- 2 ヘッドサポートベルトの面ファスナー**a**を、お子さまの頭部位置に合わせてヘッドサポート通し穴(2カ所)に通し、インナークッション裏側の面ファスナー**b**(上下2カ所)に取り付ける。



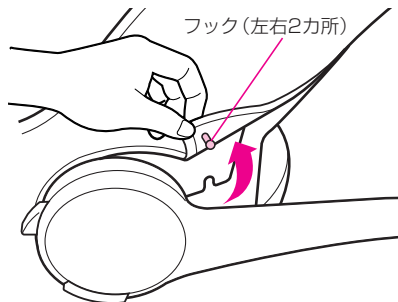
警告 お子さまの体重に合わせてインナークッションまたはシートクッションに、必ずエッグショックパッドを取り付けてください。

エッグショックパッドの取り付けかた

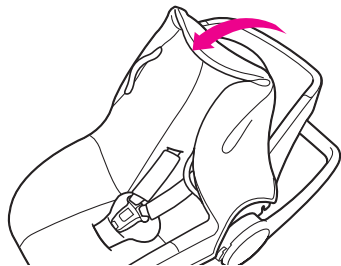
体重6kg以上～10kg未満のお子さまの場合

●シートカバーへの取り付けかた

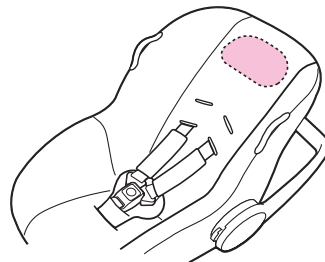
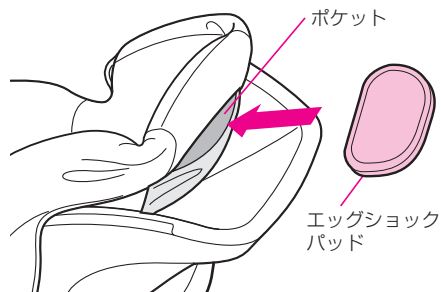
- 1** インナークッションを取りはずしたあと(16ページ「インナークッションのはずしかた」参照)、側面のフック(左右2カ所)をはずします。



- 2** シートカバーの上部を本体からはずします。



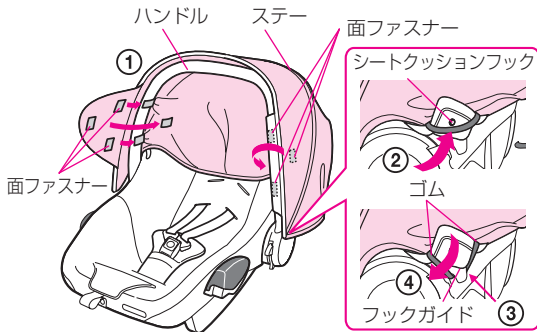
- 3** シートカバー裏側のポケットに、エッグショックパッドを取り付けます。取り付けたあと、シートカバー上部を本体にかぶせ、フック(左右2カ所)を本体に取り付けます。



幌の使いかた

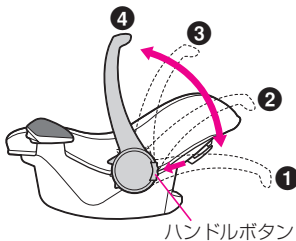
幌は、お子さまを強い日射しから守ります。

ハンドルを立てた状態で幌の面ファスナーをハンドルにかぶせるようにして、ステアーを外側に出し(①)、ベビーシートの上端の縁に合わせてかぶせます。(②)左右のシートクッションフックをはずします。(③)幌の左右のゴムをフックガイドにかけます。(④)先ほどはずしたシートクッションフックをかけ直し、ゴムがはずれないようにします。



ハンドルの使いかた

ハンドル両脇の2つのハンドルボタンを同時に押しながら、ハンドルを前後に回転させる。ハンドルの位置は4段階で調節できます。



- ハンドルが正しい位置になると、押し込まれたボタンが元の位置に戻ります。
- ハンドルに誤って大きな力加わることによる破損を防ぐため、ハンドル位置②から③へはロックされない構造になっています。

警告 ハンドルの位置を変えるときは、お子さまの指をはさまないようにご注意ください。

肩ベルト穴位置の選びかた

肩ベルト通し穴の高さの選びかた

幼児ベルトは、お子さまの肩より下の一番近い穴位置に通してください。

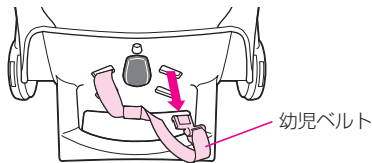


* お子さまの肩より上の位置になる場合は、一番近い穴に通してください。

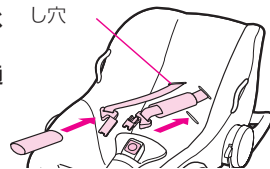


警告 肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体に合っていないと、衝撃が加わったときに幼児ベルトが肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。

- 1 バックルボタンを押して差込タンクをはずし、幼児ベルトから肩ベルトカバーを引き抜きます。
- 2 本体裏側から幼児ベルトを引き抜きます。



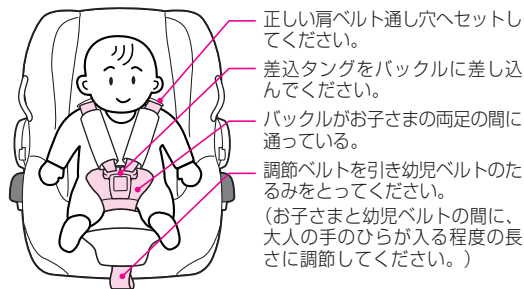
- 3 肩ベルトを、お子さまの体に合った肩ベルト通し穴に通し、肩ベルトカバーを通します。



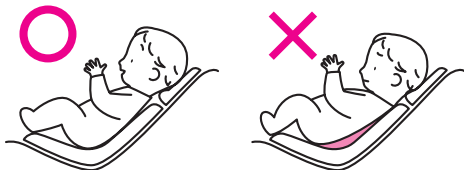
- 4 お子さまを乗せ、差込タンクをバックルに差し込み、肩ベルトの位置を確認します。

お子さまの座らせかた

お子さまを乗せ、使用する肩ベルト通し穴の位置をお子さまの体に合わせてください。



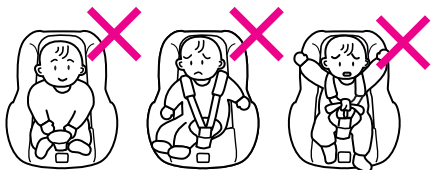
●お子さまをベビーシートに深く乗せてください。



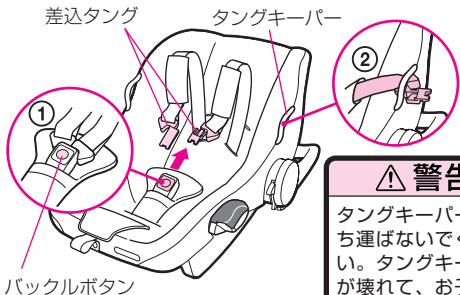
●おくるみなど、両足が分かれぬ衣類の着用はおやめください。



●お子さまをタオルなどでくるんだまま、乗せない。
●かさばったベビーウェアを着せたまま、乗せない。
●お子さまを乗せるときには、下図のような乗せかたをしないでください。ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。



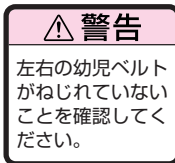
1 ①バックルボタンを押して差込タンクを抜き、幼児用ベルトをゆるめて(25ページ参照)から、②タンクキーパーに差し込みます。



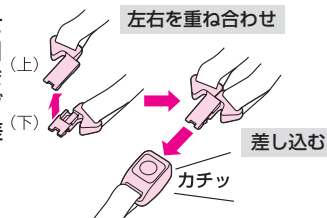
警告

タンクキーパーで持ち運ばないでください。タンクキーパーが壊れて、お子さまが落下するおそれがあります。

2 お子さまを乗せ、左右の幼児ベルトをねじれのないうように肩からかけます。



3 左右の差込タンクを重ね合わせてから「カチッ」と音がするまで、差込タンクをバックルに差し込みます。



4 調節ベルトを手前に引き、左右の幼児ベルトがお子さまの体にフィットするように調節します。(25ページ参照)

幼児ベルトの長さ調節のしかた

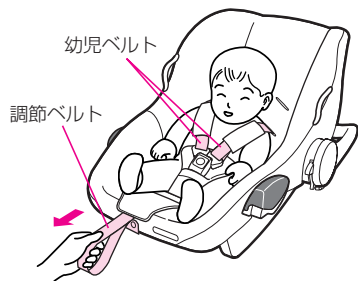
お子さまを乗せて、幼児ベルトがフィットするように長さを調節します。左右の幼児ベルトの長さが同じになるように調節してください。



- 必ずベルトの長さを調節してください。
- 幼児ベルトにたるみがあると、衝突時などにお子さまが飛び出したり、ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。

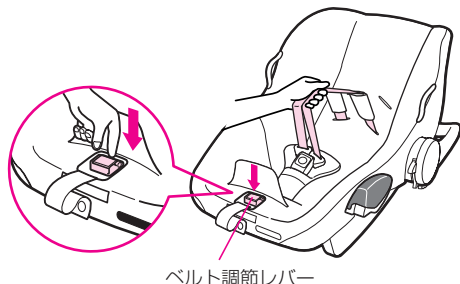
●幼児ベルトを短くするには

…調節ベルトを引きます。

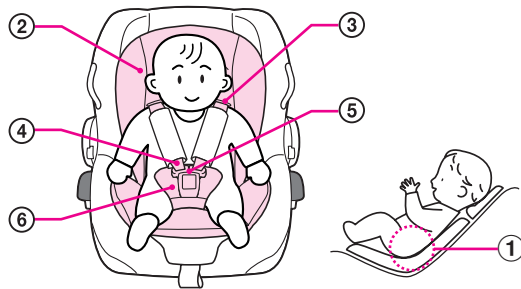


●幼児ベルトを長くするには

…カバーの下のベルト調節レバーの奥を押しながら、幼児ベルトを左右同時に手前に引きます。



各部の調節の完了チェック



- ① お子さまがベビーシートに深く座っていること。
- ② インナークッションが正しく使われていること。
(体重～6kg未満)
- ③ 正しい肩ベルト通し穴にセットされていること。
- ④ 幼児ベルトにねじれやたるみのないこと。(お子さまと幼児ベルトの間に、大人の手のひらが入る程度の長さに調節してください)
- ⑤ 差込タンクを重ね合わせてから「カチッ」と音がするまで、差込タンクがバックルに差し込まれていること。
- ⑥ バックルがお子さまの両足の間に通っていること。

車に取り付ける前に

車に取り付ける前に

車への取り付け

ここでは、取り付け上のご注意、車への取り付けかたを説明しています。

※車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは11～13ページを参照してください。

危険

- ベビーシートがしっかり固定できない場合は、本来の機能を果たさず危険ですので、他の座席に取り付けてください。
- 車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のもの
で固定しないでください。
- エアバッグ装着の座席では、ベビーシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
※サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

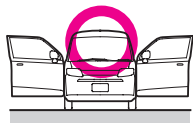
警告

- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付け
ないでください。
- 助手席にベビーシートを後ろ向きに取り付けてドアミラー
が見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。
- お子さまが乗っていないときでも、ベビーシートは必ず
シートベルトで固定しておいてください。
- シフトレバーやサイドブレーキなどの運転操作に支障を
きたす場合は、助手席に取り付けしないでください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出
の妨げになりますので助手席にベビーシートを取り付
けないでください。

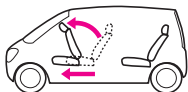
取り付け準備

取り付け作業の前に

- 1 取り付け作業は、ドアが全開可能な、平らな場所で行なってください。



- 2 車内の作業スペースを確保するため、前座席をたおしたり、スライドさせてから取り付けしてください。



ベビーシートの準備

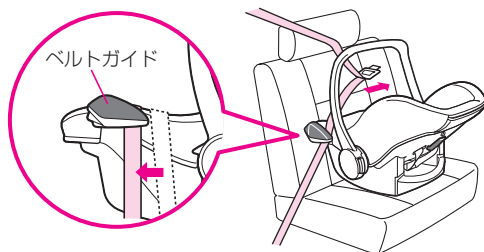
- ベビーシートのハンドルを立てた状態にしてください。
- このベビーシートは、必ず後ろ向きに取り付けます。絶対に前向きでは使用しないでください。
- 車の取り付ける座席に、ベビーシートの底面をしっかりとつけて、置いてください。



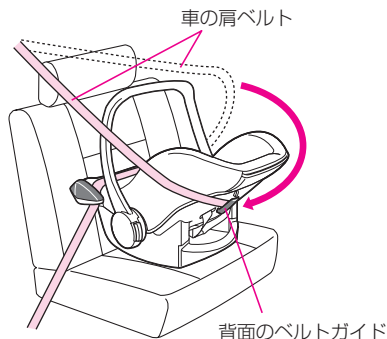
27

取り付けかた

- 1 車のシートベルトを引き出し、腰ベルトを、ベビーシート両サイドのベルトガイドにはさみ込みます。

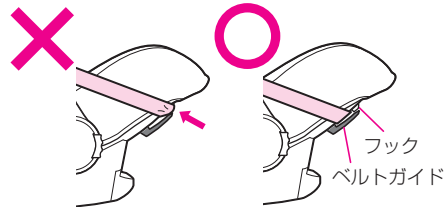


- 2 車の肩ベルトを、ベビーシート背面のベルトガイドにはさみ込みます。



肩ベルトが、ベルトガイドのフックより下にしっかりとさみ込まれていることを確認してください。

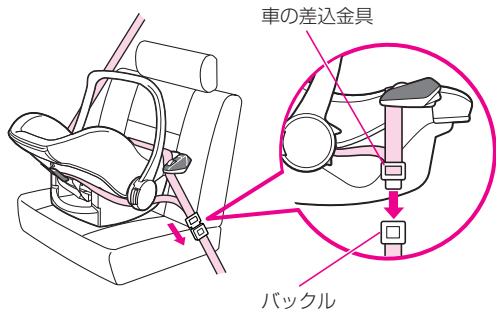
警告



28

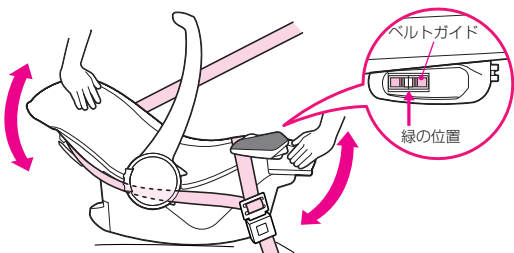
取り付けかた

3 車の差込金具をバックルに差し込みます。



ワンポイント シートベルトの短い座席ではベビーシートを押し込みながらバックルを差し込んでください。

4 肩ベルト、腰ベルトのたるみをなくしながら引っ張り、ベルトガイドに取り付けられている**角度計が緑の位置**になるように調節してください。



進行方向 ←

車両ベルトの取り付け位置が左右のベルトガイドより進行方向前側の場合、別の座席に取り付けてください。

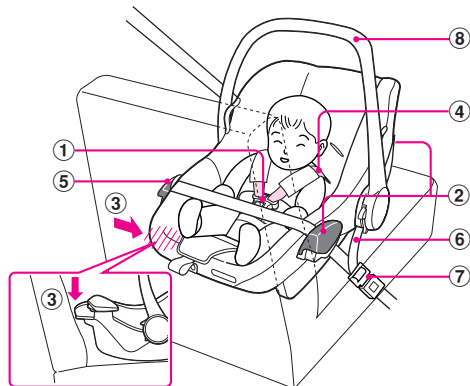
警告

車両バックルがベルトガイドに当たり、しっかり取り付けできない場合、別の座席に取り付けてください。

※ご不明な点は、当社のコンシューマープラザへお問い合わせください。

取り付け時の完了チェック

取り付けが終わったら、ベビーシートがしっかり取り付けられているか、次のことを確認してください。



- ① 差込タンクを重ね合わせてから『カチッ』と音がするまで、差込タンクがバックルに差し込まれていること。
- ② 幼児ベルトの調節が正しくされていること。(25ページを参照)
- ③ 車のシートベルトが、青色の3つのベルトガイドに正しくはさみ込まれていること。
- ④ 車のシートベルトの差込金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。
- ⑤ 車の背もたれとベビーシートの先端の接している部分に、すきまがないこと。
- ⑥ お子さまを乗せた状態で、車のシートベルトにゆるみのないこと。
- ⑦ 角度計が緑の表示を指していること。
- ⑧ ハンドルを立てた状態であること。

ベビーキャリーでご使用の場合

お子さまを乗せたままでも、車への取り付け、取りはずしが可能です。

警告

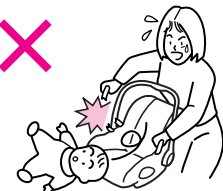
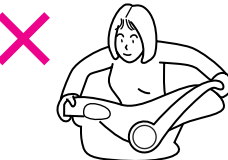
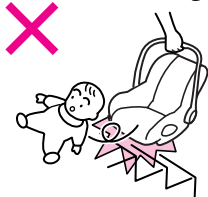
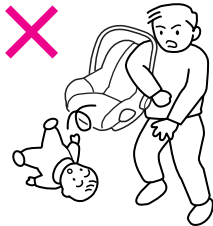
これらの項目を確認し、しっかりと取り付けできない場合は再調節してください。それでもしっかり取り付けできない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

その他の使いかた

ベビーキャリー

警告

- お子さまを乗せるときは、必ず幼児ベルトを装着し、**差込タンクとバックルを固定**してください。
- **ハンドルを肩にかけて持ち運ばない**でください。お子さまを転落させたり、運んでいる方が転倒して、けがの原因となります。
- 階段、段差、坂道など、段差のある場所で**ぶつけない**ように十分注意してください。お子さまを転落させたり、運んでいる方が転倒して、けがの原因となります。
- ベビーシートを、テーブルやいすの上など、落下する危険性がある場所に置かないでください。転倒してけがの原因となります。
- 図のような持ちかたをしないでください。ハンドル位置が変わり、お子さまが落下するおそれがあります。
- タングキーパーで持ち運ばないでください。タングキーパーが壊れ、お子さまが落下するおそれがあります。

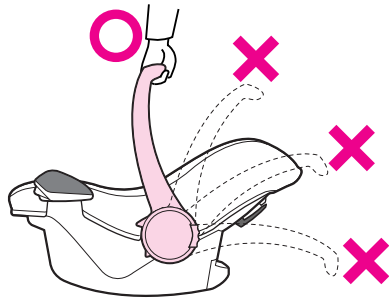


お子さまの乗せかた、肩ベルト通し穴の選びかた、幼児ベルトの長さの調節のしかたは、22～25ページを参照してください。

持ちかた

ハンドルを最も立てた位置にすると、お子さまをベビーシートに乗せたまま移動することができます。

- **ハンドルを握る場合。**



- **ハンドルをひじにかけ、もう一方の手で本体をつかむ場合。**



警告

ハンドルがひじからすべり落ちる可能性がありますので、必ずもう一方の手で本体をつかんでください。

ロッキングチェア

警告

次のような使いかたは、ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

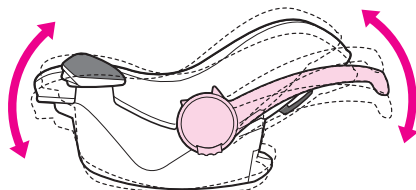
- ロッキングチェアとして使用できる目安は、首がすわってから10カ月頃までのお子さまで。首がすわるまでロッキングは使わないでください。
- ロッキングせずにチェアとして使用できる目安は、新生児～12カ月頃までのお子さまで。上記月齢にあてはまらないお子さまはチェアとして使用できません。
- お子さまの足が床に着く場合は、ご使用をおやめください。
- 必ず、保護者の目の届く場所で使用してください。
- お子さまを乗せるときは、必ず幼児ベルトを装着し、幼児ベルトの差込タンクとバックルを固定し、ベルトにたるみがないよう調節してください。
- 車内では、ロッキングチェアとしての使用をおやめください。
- テーブルやイスの上など落ちる危険性がある場所や階段・段差・傾斜のある所、またタイルなどすべりやすい場所での使用をおやめください。転倒してけがの原因となります。
- ストープの近くや、落下物の心配のある場所での使用をおやめください。
- 2人以上のお子さまを乗せないでください。
- お子さまの乗せ降ろしは、必ず保護者が行ってください。
- お子さまが身を乗り出さないよう、注意してください。



お子さまの乗せかた、肩ベルト通し穴の選びかた、幼児ベルトの長さの調節のしかたは、22～25ページを参照してください。

ロッキングの使いかた

ハンドルをロッキングチェアポジションにして、手で軽く押ししてください。
ベビーシートがゆっくりロッキングします。



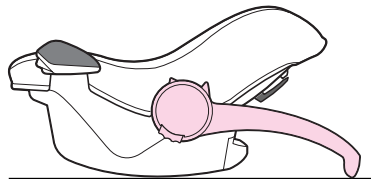
<ロッキングポジション>

警告

- お子さまの様子を見ながら押ししてください。
- 長時間のご使用をおやめください。

チェアの使いかた

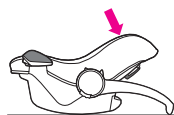
ハンドルを固定ポジションにするとロッキングしません。チェアとしてお使いいただけます。



<ロッキング固定ポジション>

警告

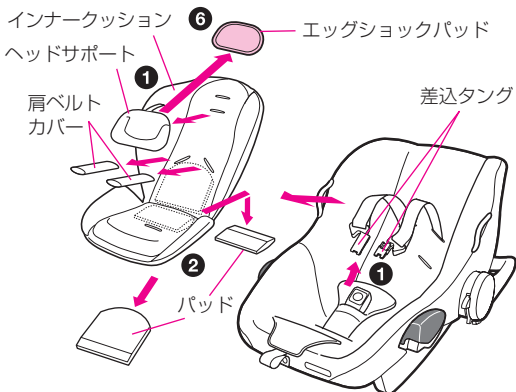
チェア状態で矢印の方向に強い力をかけると、ハンドルが破損するおそれがあります。強い力をかけハンドル位置が変わった場合、外観上の破損がなくても使用をおやめください。



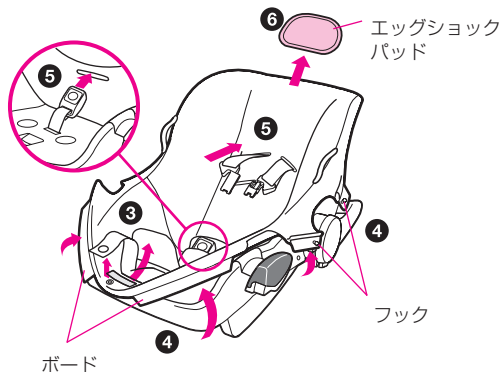
お手入れのしかた

シートカバーのはずしかた

- ① バックルボタンを押して差込タンクをはずし、肩ベルトカバー、インナークッションを引き抜きます。
- ② インナークッションからパッド(2個)を取りはずします。



- ③ 調節ベルトのカバーをはずし、調節ベルトをフックからはずします。
- ④ 側面のフック(4カ所)と先端のボードをはずします。
- ⑤ 本体からシートカバーをはずし、幼児ベルトとバックルを引き抜きます。
- ⑥ ヘッドサポートもしくはシートカバーから、エッグショックパッドを取りはずします。



シートカバーの取り付けかた

- ① インナークッションもしくはシートカバーにエッグショックパッドを取り付けます。
- ② 先端のボード(2カ所)を引っかけます。
- ③ シートカバーを本体の上にかけ、側面のフック(4カ所)にひっかけます。
- ④ シートカバー(インナークッション)に幼児ベルト、バックルを通します。
- ⑤ 幼児ベルトに肩ベルトカバーを通します。
- ⑥ 左右の差込タンクを組み合わせ、バックルに差し込み、調節ボタンを押しながら調節ベルトを引いて、左右の幼児ベルトが調節できることを確認します。

シートカバー、肩ベルトカバー、インナークッション、幌の洗いかた

洗濯時は次のことを守ってください。
※エッグショックパッドは洗濯できません。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干してください。

※インナークッションを洗濯するときは、背面と座面に入っているパッドを抜いてください。また、エッグショックパッドも取りはずしてください。

※蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。
※洗濯機、脱水機、乾燥機は使用しないでください。

お手入れのしかた

本体、幼児ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。



中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児ベルトをいためるおそれがあり危険です。

保管のしかた

●取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、シートカバー後ろ側のポケットに保管してください。

●本体

長期間使用しないときは、車から降ろし風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

廃棄のしかた

- お住まいの自治体の規定に従い、処分、廃棄してください。
- 衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたベビーシートは、外見上の破損が無くても絶対に使用しないでください。事故により処分する場合は、本製品が再利用されないように縫製品などをはずして、廃棄してください。

製品仕様

製品サイズ	: (W)465×(D)690×(H)346mm (チェア状態)
製品質量	: 3.2kg
主な材質	: 本体…ポリプロピレン シートカバー 表生地…ポリエステル クッション材…ポリウレタン

製品を安全に、正しくお使いいただくために。

製品を安全に正しくお使いいただくための情報を、当社ホームページでご案内しております。下記のホームページをご覧ください。

<http://www.combi.co.jp/safetyinfo/index.html>